
姫君になる方法

浅瀬

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

姫君になる方法

【Nコード】

N0314BA

【作者名】

浅瀬

【あらすじ】

父から告げられた縁談。相手は女たらしで有名な貴族。しかも学友。

冗談じゃないっ。これ以上の厄介ことはごめんなんだから！

姫君がどうにかして縁談を潰そうと奮闘するお話。

女の敵

「最低！」

甲高い声のあとに、パシーンという小気味いい音が響いた。

音の発生源は確認するまでもない。

自分のすぐ横で繰り広げられていたのだから、嫌でも目に付く。

至近距離で友人　関係を改めた方が良かったか何度思ったか知れない　がビンタをまともにくらっていた。というか、避けなかったなコイツ。

一発殴られておけば相手の気が晴れるとか考えてるに違いない。最低だ。最悪だ。

女の子泣かせるとか信じられない。

「…キース」

制裁を加えて走り去っていった少女を視線で見送った後、またか。と、ふんだんに軽蔑の眼差しを向けてやる。

「お前はもう世の中の女性に関わるな。手を出すな」

「あつちから寄ってくるんだよ」

肩を竦めてそんなことをのたまう女の敵。

「相手しなきゃいいだけだろ」

「それはそれで言い方考えろとか怒るくせに」

当然だ。

「手出した相手にそういう態度をとるからだ。今のも自業自得。むしろもつと痛い目に遭えばいいと思う。世の女性たちも僕も溜飲が下がって大変清々しい」

「お前は本当かたいよな。そんなだから恋人の一人もいないんだぞ」
「余計なお世話だ」

「折角王子っていう身分隠してるんだから、もっと遊べば？」

「…お前見てるとそんな気失せる」

修羅場を終えたばかりとは思えないくらいいつもと変わらぬ態度。この見た目だけは大変良い男は名をキース「ヘイド」と言う。見てくれだけでなく家柄も良い、性格も悪くはないが女癖がとてつもなく悪い、女癖が悪いというか、来るもの拒まず去るもの追わずというか・・・可愛い女の子がいれば口説く、みたいな。とりあえず最低。

キースの女性関係については学院でも噂が立ってるはずなのに被害者が跡を絶たない。

見た目が良いというのは、年頃の女の子にとってはそれだけで魅力らしい。見た目が大事だと言う考えも否定はしないが、中身が伴わなくては意味がないではないか。

「そんなに言うなら、お前の妹姫紹介してくれよ」
「何故そんな話に繋がる」

少しは自粛しろと言った直後なのに。

「超却下。絶対お前にだけは紹介したくない」

「友人に対して失礼な」

「よく言うよ。この女の敵」

「女の子に興味ない男なんていないだろ」

「ああ、そう」

言い返す気が起こらない。もう、何を言っても無駄無駄。

自分にできることと言えば、こいつの毒牙にかからないよう女の子を少しでも遠ざけておくことくらいだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0314ba/>

姫君になる方法

2011年12月31日19時48分発行